

テーマ：私たちが見倣うべき“働き”におけるパウロの態度とは？

○キリストを中心とする働き：模範とするべき五つの態度

1. 働きに伴う結果を喜んで受け入れること(24)
2. 自分に委ねられた務めを覚えていること(25)
3. 栄光に富んだ奥義を忠実に伝えること(26-27)
4. 最後まで_____を見失わないこと(28)

●パウロの“働きの中心”(28a)

※1 コリント 1:23-24

「しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」

※2 コリント 4:5

「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。…」

※ピリピ 1:18

「すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいます。そうです、今からも喜ぶことでしょう。」

▷「戒めること」(ギリシヤ語“ノウセテオ”=「_____」“ノウス”+「_____」“ティテーミ”)

※1 コリント 4:14-15

「私がこう書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、愛する私の子どもとして、さとすためです。たといあなたがたに、キリストにある養育係が一万人数あろうとも、父は多くあるはずがありません。この私が福音によって、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。」

▷「教えること」

※コロサイ 3:16

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

※ピリピ 3:10-12

「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうかして、死者の中からの復活に達したいのです。私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。…」

●パウロの“働きのゴール/目的”(28b)

※1 ヨハネ 3:2-3

「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

※ローマ 15:14

「私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。」

※箴言 27:6

「憎む者が口づけしてもてなすよりは、愛する者が傷つけるほうが真実である。」

5. _____にただ拠り頼み続けること(29)

▷「労苦しながら」

▷「奮闘しています」

※1 コリント 9:25

「また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。」

「パウロが『奮闘する』と訳した言葉は、古代ギリシャのオリンピックと関連付けられ、特に残忍な催しであった古代レスリングのような、熱心に争われる競技を表現しています。この言葉は汗と涙、切り傷とあざを連想させるのです。」
(マーク・メネル)

※2 テモテ 4:6-7

「私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」

※2 コリント 11:29-30

「だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。」

※2 コリント 12:9-10

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

※ピリピ 4:13

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」